

授業科目	眼科検査実習 【視能】	担当教員	川岸 寿幸		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	視野の理論を理解し、検査の基本技術を身につける。網膜電図についての基礎を身につける。				
到達目標	ゴールドマン視野計にて正常眼を正確に測定できる。網膜電図を理解する。電気生理検査の知識を身につける。				
テキスト・参考図書等	プリント教材、視能学 第3版(文光堂)、眼科検査ガイド 第3版(文光堂)、病気がみえる vol.12 眼科(メディックメディア)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	定期試験 70% 小テスト 20% 提出物 10%		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	10			
その他	0				
履修上の留意事項	<p>事前学習に動画を使用します。講義前に視聴すること。また視野検査実習前は必ずどのように測定を行うか予習をすること。予習を行わないと被検者に迷惑をかけます。</p> <p>視野検査実習時は検者被検者ともに行います。毎年被検者の時寝てしまうことがあるので、実習前日はよく睡眠をとること。</p> <p>小テストを細かく行います。事前に予習をすること。また基準に満たない学生は再試験を行います。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	視野検査 1	視野について復習 ゴールドマン視野計 1 ゴールドマン視野計の基礎 輝度調整・背景輝度調整		
	2	視野検査 2	ゴールドマン視野計 2 測定方法		
	3	視野検査 3	ゴールドマン視野計 3 測定(V/4e ~ /3e)		
	4	視野検査 4	ゴールドマン視野計 4 測定(V/4e ~ /1e)		
	5	視野検査 5	ゴールドマン視野計 5 測定 中間イソプター 自動視野計		
	6	視野検査 6	ゴールドマン視野計 6 測定 中間イソプター 自動視野計		
	7	視野検査 7	ゴールドマン視野計 7 暗点測定 自動視野計		
	8	視野検査 8	ゴールドマン視野計 8 暗点測定 自動視野計		
	9	視野検査 9	ハンフリー視野計 1 ハンフリー視野計の実際		
	10	視野検査 10	ハンフリー視野計 2 測定法の実際		
	11	電気生理検査 1	網膜電図概要		
	12	電気生理検査 2	網膜電図実習		
	13	電気生理検査 3	網膜電図実習		
	14	電気生理検査 4	視覚誘発試験 VEP、眼球電図 EOG、筋電図 EMG		
	15	まとめ	視野検査・電気生理検査 復習		
16					



授業科目	眼科検査実習 【視能】	担当教員	川岸 寿幸		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	視野異常を有する疾患について理解を深め、視野異常測定について理解する。				
到達目標	視野異常を有する疾患（主に緑内障・網膜色素変性症）について理解する 視野異常測定方法の基礎を理解する 実際に視野異常の測定または見学を通して、測定方法の理解を深める				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版（文光堂）、病気がみえる vol.12 眼科（メディックメディア）、配付プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験 80% 小テスト 20%		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	小テストを数回行います。事前に予習すること。 14回目 15回目の講義は実際に視野異常を測定します。この講義に向けて1回目から真剣に講義に取り組み理解すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	視野異常に特徴を有する疾患 1	網膜色素変性症		
	2	視野異常に特徴を有する疾患 2	緑内障		
	3	視野異常に特徴を有する疾患 3	視覚伝導路 心因性視能障害		
	4	視野異常測定方法 1	緑内障視野 1		
	5	視野異常測定方法 2	緑内障視野 2		
	6	視野異常測定方法 3	網膜色素変性症 視覚伝導路		
	7	視野異常測定実習 1	緑内障視野		
	8	視野異常測定実習 2	網膜色素変性症視野		
	9	視野異常・視野異常測定問題演習 1	視野異常 問題演習		
	10	視野異常・視野異常測定問題演習 2	視野異常測定 問題演習		
	11	まとめ 小テスト	これまでの講義の復習（主に測定方法） 小テスト		
	12	臨床的視野検査	臨床における視野検査のポイントと実際 1		
	13	臨床的視野検査	臨床における視野検査のポイントと実際 2		
	14	臨床的視野検査	視野異常測定 1		
15	臨床的視野検査	視野異常測定 2			



授業科目	眼疾病学 【視能】	担当教員	山田 正幸		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	眼疾病についての基礎知識を修得する。				
到達目標	主要な眼疾病の病態・症状・診断・治療について述べるができる。				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版(文光堂)、眼科検査ガイド 第3版(文光堂)、現代の眼科学 改訂第13版(金原出版)、病気がみえる vol.12 眼科(メディックメディア)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	定期試験(山田)70% レポート(ぶどう膜炎)10% 小テスト(四宮+川岸+佐藤)20%		
	レポート	10			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	幅広い学習内容のため、覚えることが多いので日頃からの勉強を怠らないこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	眼疾病学1(山田)	眼瞼・涙器		
	2	眼疾病学2(山田)	結膜・角膜・強膜		
	3	眼疾病学3(川岸)	緑内障		
	4	眼疾病学4(山田)	ぶどう膜炎		
	5	眼疾病学5(山田)	脈絡膜・網膜・硝子体1		
	6	眼疾病学6(山田)	脈絡膜・網膜・硝子体2		
	7	眼疾病学7(山田)	脈絡膜・網膜・硝子体3		
	8	眼疾病学8(山田)	脈絡膜・網膜・硝子体4		
	9	眼疾病学9(山田)	脈絡膜・網膜・硝子体5		
	10	眼疾病学10(山田)	脈絡膜・網膜・硝子体6		
	11	眼疾病学11(四宮)	瞳孔・対光反射		
	12	眼疾病学12(川岸)	眼窩・視神経・視路		
	13	眼疾病学13(佐久間)	眼球運動1		
	14	眼疾病学14(佐久間)	眼球運動2		
15	眼疾病学15(山田)	まとめ・復習			



授業科目	眼疾病学 【視能】	担当教員	山田 正幸		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	視能訓練士に必要な眼疾病に関する臨床的知識を修得する。				
到達目標	眼疾病の病理、検査、診断、治療について説明ができる。				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版(文光堂)、眼科検査ガイド 第3版(文光堂)、現代の眼科学 改訂第13版(金原出版)、視能矯正マニュアル 改訂版(メディカル葵出版) 斜視・弱視診療アトラス(金原出版)、神経眼科学を学ぶ人のために 第2版(医学書院)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験 80% (四宮+川岸+山田+引地+今泉) 80% 小テスト 20% (専任教員+松本)		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	プリントや板書、パワーポイントを中心に講義形式の授業になるためノートを作成すること。 集中講義のため欠席しないこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	網膜・黄斑部疾患(専任教員、山田)	網膜疾患についての基本的知識		
	2	網膜・黄斑部疾患(専任教員、山田)	疾患の原因および発生機序・治療法		
	3	眼疾病学(山田)	眼瞼・涙器・結膜・角膜・強膜		
	4	眼疾病学(山田)	脈絡膜・網膜・硝子体		
	5	眼疾病学(山田)	脈絡膜・網膜・硝子体		
	6	眼疾病学(四宮)	瞳孔・対光反射		
	7	眼疾病学(川岸)	緑内障		
	8	眼疾病学(川岸)	眼窩・視神経・視路		
	9	網膜疾患(今泉)	網膜疾患		
	10	網膜疾患(今泉)	網膜疾患		
	11	網膜疾患(今泉)	網膜疾患		
	12	眼疾患(松本)	眼疾患 全般(前眼部、ぶどう膜、角膜)		
	13	眼疾患(松本)	眼疾患 全般(緑内障、白内障)		
	14	加齢と眼疾患(引地)	加齢黄斑変性、硝子体の加齢変化と網膜疾患		
15	加齢と眼疾患(引地)	動脈硬化と網膜循環疾患、糖尿病網膜症			



授業科目	教養 【視能】	担当教員	高野 文子		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	医療人としての接遇・マナーを身につける。				
到達目標	レセプト、データ管理の基礎について述べるができる。臨床現場で必要とされる教養・心構えを構築する。				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版 (文光堂)、眼科検査ガイド 第3版 (文光堂)、視能矯正学 改訂第3版 (金原出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	確認試験 高野 40% 菅原 60%		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	実習やグループワーク、座学など、臨床現場で必要とされる知識・教養・心構えを構築するべく多岐にわたる授業。 各担当教員の評価方法をしっかり把握すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	医療人のマナー1 (高野)	訪問のマナー・おもてなしの心・接遇の基本・和洋室別の接遇・名刺交換の基本		
	2	医療人のマナー2 (高野)	自分の立場・席次とは・場面別の席次・電話対応の基本・実習先への電話		
	3	医療人のマナー3 (高野)	公共の場のマナー・お見舞いのマナー・手紙の書き方・実習先でのマナー		
	4	医療人のマナー4 (高野)	テーブルマナーの基本・和洋食別のマナー・パーティーのマナー		
	5	医療人のマナー5 (高野)	マナー検定筆記対策・マナー検定筆記試験説明・マナー検定初級(筆記試験)・マナー検定実技演習説明		
	6	医療人のマナー6 (高野)	マナー検定実技演習		
	7	レセプト1 (菅原)	医療機関について、医療機関と薬局の関係、医療保障制度、医療保険の種類		
	8	レセプト2 (菅原)	保険給付 医科医療事務の仕事・日常業務・請求業務		
	9	レセプト3 (菅原)	診療費計算		
	10	レセプト4 (菅原)	診療費計算		
	11	レセプト5 (菅原)	医事コンを使った診療費計算		
	12	レセプト6 (菅原)	診療費計算 医事コンを使った診療費計算 まとめ		
	13	レセプト7 (菅原)	医療事務クラーク学科の学生の検査		
	14	レセプト8 (菅原)	眼科診療報酬点数計算		
15	レセプト9 (菅原)	まとめ 確認テスト			



授業科目	高次脳機能障害学【視能】	担当教員	向野 雅彦		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	高次脳機能障害について学び、視覚の機能障害を高次脳機能障害からアプローチし、視能訓練士として眼科医療現場における検査・訓練の実際につなげる。				
到達目標	脳の局所障害により生じた注意、記憶、理解、言語、判断、遂行などの機能障害について学び、また認知障害(視覚形態の動きの認識、色失認、半側空間無視、相貌失認、Williams症候群、注意障害、記憶障害、学習障害等)も含め、障害の原因・病態・評価方法及びその訓練法を認識する。				
テキスト・参考図書等	プリント教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	確認試験 100%		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	プリントや板書、パワーポイントを中心に講義形式の授業。 扱う題材が幅広いので欠席しないこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	リハビリテーション医学概論(向野)	総論・概論、治療的リハビリテーションアプローチ、代償的リハビリテーションアプローチ、環境改善的リハビリテーションアプローチ		
	2	高次脳機能障害概論(向野)	総論・概論		
	3	高次脳機能障害の病態と評価(澤村)	失語、失行、失認、記憶障害、注意障害、		
	4	高次脳機能障害の病態と評価(小川)	遂行機能障害、社会的行動障害		
	5	作業療法(小川)	総論と実際、高次脳機能障害とリハビリテーション		
	6	理学療法(由利)	総論と実際、高次脳機能障害とリハビリテーション		
	7	言語聴覚療法(石谷)	総論と実際、高次脳機能障害とリハビリテーション		
	8	ソーシャルワーク(玉川)	総論と実際、高次脳機能障害者支援に対するソーシャルワーカーの役割		



授業科目	視能矯正学実習 【視能】		担当教員	佐藤 幸恵	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	各種斜視への理解を深め、正確に検査とその評価ができるよう考える力と実践力を学ぶ。				
到達目標	各種眼位検査の目的とその方法を理解し、正しく測定できる。				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版 (文光堂)、視能矯正マニュアル 改訂版 (メディカル葵出版)、視能矯正学 改訂第3版 (金原出版)、視能学エキスパート 視能訓練学 第2版 (医学書院)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	確認試験 50% 実技試験 50%		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	実技試験の前に知識整理として確認試験を行う。覚えなければならない検査の種類が多いので、その都度復習をしっかりと行うこと。確認試験終了後、眼位検査の実技試験を行う。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	斜視各論 1 (佐藤)	共同性斜視 内斜視・外斜視		
	2	斜視各論 2 (佐藤)	非共同性斜視 麻痺性斜視		
	3	斜視各論 3 (佐藤)	非共同性斜視 特殊型斜視		
	4	眼位検査の基本 (佐藤)	定性検査・定量検査について 1 (角膜反射による眼位検査と遮閉試験)		
	5	眼位検査の基本 (佐藤)	定性検査・定量検査について 2 (角膜反射による眼位検査と遮閉試験)		
	6	眼位検査の基本 (提嶋・佐藤・佐久間)	定性検査・定量検査実習 1 (角膜反射による眼位検査と遮閉試験)		
	7	眼位検査の基本 (提嶋・佐藤・佐久間)	定性検査・定量検査実習 2 (角膜反射による眼位検査と遮閉試験)		
	8	眼位検査の基本 (提嶋・佐藤・佐久間)	定性検査・定量検査実習 3 (角膜反射による眼位検査と遮閉試験)		
	9	眼位検査の基本 (提嶋・佐藤・佐久間)	定性検査・定量検査実習 4 (角膜反射による眼位検査と遮閉試験)		
	10	眼位検査の基本 (佐藤)	角膜反射による眼位検査と遮閉試験・まとめ		
	11	眼位検査の基本 (提嶋)	大型弱視鏡による眼位検査について		
	12	眼位検査の基本 (提嶋・佐藤)	大型弱視鏡による眼位検査実習		
	13	眼位検査の基本 (佐藤・佐久間)	回旋偏位検査について(Maddox 二重杆試験・New cyclo test・Cyclophorometer)		
14	眼位検査の基本 (佐藤・)	回旋偏位検査実習 (Maddox 二重杆試験・New cyclo			

		佐久間)	test・Cyclophorometer)
	15	眼位検査の基本 (佐藤)	遮閉試験以外の眼位検査、回旋偏位検査・まとめ



授業科目	視能矯正学実習 【視能】		担当教員	佐藤 幸恵	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	両眼視機能への理解を深め、正確に検査とその評価ができるよう考える力と実践力を学ぶ。				
到達目標	斜視および眼球運動障害の診断・治療につながる各種検査について理解し、正しく検査を行える。また、その検査結果の評価ができる。				
テキスト・参考図書等	視能学エキスパート 視能訓練学 第2版(医学書院)、視能学 第3版(文光堂)、視能矯正 理論と実際(金原出版)、眼科検査ガイド 第3版(文光堂)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験 40% 実技試験 40% 小テスト 20%		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	大型弱視鏡を用いた両眼視機能検査の実技試験を行うので、練習に励むこと。他にも学ぶ検査が多いので、单元ごとに小テストを行う。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	両眼視機能検査(佐藤)	立体視について	近見立体視	遠見立体視 深径覚 三柱計 その他
	2	両眼視機能検査(佐藤)	立体視検査・実習		
	3	両眼視機能検査(佐藤)	融像・抑制・不等像について1		
	4	両眼視機能検査(佐藤)	融像・抑制・不等像について2		
	5	両眼視機能検査(佐藤)	融像・抑制・不等像実習1(パープリズム、赤フィルター、4 B.O.T、ニューアニセイコニアテスト等)		
	6	両眼視機能検査(佐藤)	融像・抑制・不等像実習2(パープリズム、赤フィルター、4 B.O.T、ニューアニセイコニアテスト等)		
	7	両眼視機能検査(佐藤)	大型弱視鏡による両眼視機能検査		
	8	両眼視機能検査(提嶋、佐藤)	大型弱視鏡による両眼視機能検査実習1		
	9	両眼視機能検査(提嶋、佐藤)	大型弱視鏡による両眼視機能検査実習2		
	10	両眼視機能 総合(提嶋、佐藤)	大型弱視鏡	実技指導1	
	11	両眼視機能 総合(提嶋、佐藤)	大型弱視鏡	実技指導2	
	12	網膜対応検査1(佐藤)	固視眼中心窩と偏位眼道づれ領の網膜対応検査について 赤ガラス法・Bagolini線状試験・Worth4灯試験 他		
	13	網膜対応検査実習(佐藤・佐久間)	固視眼中心窩と偏位眼道づれ領の網膜対応検査実習 赤ガラス法・Bagolini線状試験・Worth4灯試験 他		
14	網膜対応検査2(佐藤)	固視眼中心窩と偏位眼中心窩の網膜対応検査について プリズムアダプテーションテスト・残像試験 他			

15	網膜対応検査 3 (佐藤)	固視眼中心窩と偏位眼中心窩の網膜対応検査 (偏心固視含む) について 両眼ビズスコープ試験・残像転送試験 他
16	網膜対応検査実習 (提嶋、佐藤)	固視眼中心窩と偏位眼中心窩の網膜対応検査実習 プリズムアダプテーションテスト・残像試験 他
17	網膜対応検査実習 (提嶋、佐藤)	固視眼中心窩と偏位眼中心窩の網膜対応検査 (偏心固視含む) 実習 両眼ビズスコープ試験・残像転送試験 他
18	網膜対応検査 4 (佐藤)	実習まとめ 模式図、演習問題
19	眼球運動検査 (佐藤)	検査機器を用いた検査と用いない眼球運動検査について
20	眼球運動検査実習 (提嶋、佐久間、佐藤)	眼球運動検査実習 1(Hess 赤緑試験・注視野・複像検査)
21	眼球運動検査実習 (提嶋、佐久間、佐藤)	眼球運動検査実習 2(Hess 赤緑試験・注視野・複像検査)
22	眼球運動検査実習 (佐藤)	9 方向向き眼位による眼球運動検査
23	眼球運動検査実習 (佐藤)	大型弱視鏡による 9 方向眼位検査について
24	眼球運動検査実習 (提嶋、佐久間、佐藤)	大型弱視鏡による 9 方向眼位検査実習 1
25	眼球運動検査実習 (提嶋、佐久間、佐藤)	大型弱視鏡による 9 方向眼位検査実習 2
26	眼球運動検査実習 (佐藤)	大型弱視鏡による 9 方向眼位検査・実習と演習
27	AC/A 比(佐藤)	AC/A 比 1 理論
28	AC/A 比(佐藤)	AC/A 比 2 理論
29	AC/A 比 (提嶋、佐藤)	AC/A 比 実習
30	AC/A 比 (提嶋、佐藤)	AC/A 比 実習と演習



授業科目	視能訓練学【視能】		担当教員	佐藤 幸恵	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	23回	時間数 46時間
授業目的	視能矯正・視能訓練の基礎を学ぶ。				
到達目標	視能矯正の基礎を理解し、臨床実習に備えて斜視・弱視検査、治療法について述べるができる。				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版(文光堂)、視能矯正マニュアル 改訂版(メディカル葵出版)、視能矯正学 改訂第3版(金原出版)、視能矯正 理論と実際(金原出版)、視能学エキスパート 視能訓練学(医学書院)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	定期試験 70% 小テスト 30%		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	学ぶ検査法や治療法が多いので、その都度理解しながら受講すること。単元ごとの小テストを実施する。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	小児看護(加藤)	新生児疾患		
	2	小児看護(加藤)	子どもの発達と視機能について		
	3	弱視各論(佐久間)	弱視の神経回路(構造と機能、片眼遮閉の効果の臨界期) 視器の形態学的発達		
	4	弱視各論(佐久間)	弱視の定義と原因・分類、心因性視覚障害について 4 基底外方試験の原理		
	5	弱視各論・検査(佐久間)	弱視の検査 問診から始まる各種検査、固視について		
	6	弱視各論・検査(佐久間)	固視検査について		
	7	弱視各論・検査(佐久間、佐藤)	固視検査実習(残像とH.B、ユーチスコープ・コーディネートル・A.I使用)		
	8	弱視各論・訓練(佐久間、佐藤)	弱視訓練の適応と経過観察(健眼遮閉、アトロピン遮閉・ペナリゼーション、コンプライアンス等、バンガーター膜実習)		
	9	弱視各論・訓練(佐久間、佐藤)	弱視訓練の適応と経過観察(健眼遮閉、アトロピン遮閉・ペナリゼーション、コンプライアンス等、バンガーター膜実習)		
	10	斜視の観血的療法(佐藤)	斜視手術 種類と適応		
	11	斜視の観血的療法(佐藤)	斜視手術 種類と適応、合併症について	ボツリヌス治療	
	12	眼球振盪(佐藤)	眼球振盪 種類と治療1		
	13	眼球振盪(佐藤)	眼球振盪 種類と治療2		
	14	視能矯正の知識と技術(提嶋)	プリズムによる視能矯正 目的と方法		
	15	視能矯正の知識と技術(提嶋)	フレネル膜プリズム プリズム貼り実習		
	16	視能矯正の知識と技術(提嶋)	フレネル膜プリズム プリズム貼り実習		
	17	視能矯正の知識と技術(佐藤)	斜視視能訓練について		
18	視能矯正の知識と技術(佐藤)	大型弱視鏡以外の斜視視能訓練 方法と実習(家庭用訓練道具作成)			

	19	視能矯正の知識と技術 (佐藤)	大型弱視鏡以外の斜視視能訓練 方法と実習 (家庭用訓練道具作成)
	20	視能矯正の知識と技術 (提嶋)	大型弱視鏡による斜視視能訓練
	21	視能矯正の知識と技術 (提嶋、佐藤)	大型弱視鏡による斜視視能訓練実習
	22	視能矯正の知識と技術 (提嶋、佐藤)	大型弱視鏡による斜視視能訓練実習
	23	視能矯正の知識と技術 (佐藤)	まとめ 演習問題



授業科目	視能訓練士総論【視能】		担当教員	四宮 敦志	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	臨床の場で必要とされる知識・技術・接遇の基本を身につける。理想とする視能訓練士のイメージを持つ。				
到達目標	臨床で視能訓練士として必要とされる教養・心構えを構築する。				
テキスト・参考図書等	視能学第3版(文光堂)、眼科検査ガイド第3版(文光堂)、視能矯正マニュアル改訂版(メディカル葵出版)、視能矯正学改訂第3版(金原出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	オリエンテーション発表 20% 提出課題 20% 協会発表 20% 小テスト 20% レポート 20%		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	40			
その他	40				
履修上の留意事項	発表や提出物が多いため、自ら進んで取り組むこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション1(四宮)	「この1年をどう過ごすか」 勉強への心得		
	2	オリエンテーション2(四宮)	「理想の視能訓練士とは」B.S. KJ法を使ったグループワーク・発表		
	3	オリエンテーション3(四宮)	「理想の視能訓練士とは」B.S. KJ法を使ったグループワーク・発表		
	4	提出課題1(佐久間)	発表1		
	5	提出課題2(佐久間)	発表2		
	6	手術室関連業務(川島)	手術室の基礎知識		
	7	手術室関連業務(川島)	手術室の基礎知識		
	8	在宅医療1(OUI Inc 西村)	在宅医療の実際		
	9	在宅医療2(OUI Inc 西村)	在宅医療の実際		
	10	視能訓練士について1(四宮)	近未来の視能訓練士		
	11	視能訓練士について2(四宮)	日本視能訓練士協会から視能訓練士を知る		
	12	視能訓練士について3(四宮)	日本視能訓練士協会(生涯教育制度と認定視能訓練士、入会・JACOメイト、実態調査報告書、視能訓練士の生産性(診療報酬調査)、学術集会情報+地域勉強会、自由演題)グループワーク		
	13	視能訓練士について4(四宮)	日本視能訓練士協会(生涯教育制度と認定視能訓練士、入会・JACOメイト、実態調査報告書、視能訓練士の生産性(診療報酬調査)、学術集会情報+地域勉強会、自由演題)グループワーク		
	14	視能訓練士について5(四宮)	発表(生涯教育制度と認定視能訓練士、入会・JACOメイト、実態調査報告書、視能訓練士の生産性(診療報酬調査)、学術集会情報+地域勉強会、自由演題)		
	15	医療とコミュニケーション1(高野)	人間関係がなくなる理由・心はどうやってつくられるのか・思い込みとは何か・無意識の領域・コミュニケーションとパターン・コミュニケーションの重要性・自分の価値基準と優先順位を知る		
16	医療とコミュニケーション	価値基準と優先順位振り返り・思い込みの種類・マイナス			

	2 (高野)	の思い込み・思い込みを変える方法
17	医療とコミュニケーション 3 (高野)	コミュニケーションの目的・自分を守るためのコミュニケーション・話すだけでは伝わらない・どんな人の話を聞きたいのか・言葉のキャッチボール・前提となる姿勢
18	医療とコミュニケーション 4 (高野)	正確に伝える難しさ・ミスコミュニケーションの原因・ミスコミュニケーションの防止・エンパシーの姿勢・シンパシーの姿勢
19	高齢者施設眼科検査実習準備 (四宮)	概要説明、検査レクチャー
20	高齢者施設眼科検査実習準備 (四宮)	検査実習
21	高齢者施設眼科検査実習準備 (四宮)	ロールプレイ
22	視能訓練士の業務とやりがい (菅野、奈良)	視能訓練士の業務と可能性
23	視能訓練士の業務とやりがい (菅野、奈良)	視能訓練士のやりがい
24	視能矯正学概論 (深井)	視能訓練士の起源、エビデンスに基づく矯正訓練
25	視能矯正学概論 (深井)	矯正訓練とは、両眼視成立のメカニズム、POS
26	健診 (出村)	「乳幼児健診と視能訓練士」、3歳児健診 意義と現状、視能訓練士の役割
27	健診 (出村)	「乳幼児健診と視能訓練士」、3歳児健診 意義と現状、視能訓練士の役割
28	理解度チェック (専任教員)	問題演習 1
29	理解度チェック (専任教員)	問題演習 2
30	理解度チェック (専任教員)	問題演習 3



授業科目	視能検査実習 【視能】	担当教員	四宮 敦志		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	各視機能検査の基礎知識を学び、適切に検査を行える。				
到達目標	各視機能検査の知識を身につけ、適切な検査を実践できる。				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版 (文光堂)、眼科検査ガイド 第3版 (文光堂)、現代の眼科学 改訂第13版 (金原出版)、 理解を深めよう 視野検査 (金原出版)、理解を深めよう 視力検査 屈折検査 (金原出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	確認試験 50% 実技試験 50% (眼圧、検影法)		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	座学・実習を通して理論と技術を習得すること。 検査内容・方法をしっかり把握しスムーズかつ正確な検査ができるようになること。 実技試験を実施するので、練習をすること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	視機能検査 (四宮)	房水・眼圧検査概要		
	2	視機能検査 (四宮)	角膜内皮細胞		
	3	視機能検査 (四宮)	眼圧・内皮検査実習 (ノンコン、アイケア、スペキュラーマイクロスコープ、練習問題)		
	4	視機能検査 (四宮)	眼圧・内皮検査実習 (ノンコン、アイケア、スペキュラーマイクロスコープ、練習問題)		
	5	視機能検査 (四宮)	超音波検査 (眼軸長 Aモード・Bモード・角膜厚)、光学式眼軸長検査		
	6	視機能検査 (四宮)	眼球突出、PD測定		
	7	視機能検査 (四宮)	超音波 Aモード、Heltel 眼球突出計、デジタル PD 実習		
	8	視機能検査 (四宮)	超音波 Aモード、Heltel 眼球突出計、デジタル PD 実習		
	9	他覚的屈折検査 (四宮)	検影法 レチノスコピーの基礎		
	10	他覚的屈折検査 (四宮)	検影法 球面度数 1		
	11	他覚的屈折検査 (四宮)	検影法 球面度数 2		
	12	他覚的屈折検査 (四宮)	検影法 球面度数 3		
	13	他覚的屈折検査 (四宮)	検影法 乱視眼		
	14	他覚的屈折検査 (四宮)	検影法 オーバースキア		
15	他覚的屈折検査 (四宮)	検影法 実技			



授業科目	神経眼科学【視能】		担当教員	佐久間 愛	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	視能訓練士に必要な神経眼科に関する知識を修得する。				
到達目標	神経眼科についての病理、検査、診断、治療について説明ができる。頭蓋内疾患による眼科所見を理解し、それらに見られる視野障害、瞳孔、眼振等の特徴を述べることができる。神経眼科的検査法を選択できる。				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版(文光堂)、現代の眼科学 改訂第13版(金原出版)、神経眼科学を学ぶ人のために 第3版(医学書院)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	定期試験 80% 小テスト 20%		
	レポート	0			
	小テスト	20			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	学ぶ領域が広く多岐にわたるため、講義内容をまとめた講義録に自身で調べたことや考察した内容を加えたノートを作成し、知識整理に励むこと。 自作したノートは試験時に持ち込み可とする。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	眼球運動障害(佐藤)	核上性眼球運動障害		
	2	眼球運動障害(佐藤)	核及び核下性眼球運動障害 特殊型斜視について		
	3	眼瞼・瞳孔異常(佐藤)	眼瞼・瞳孔異常をきたす疾患について1		
	4	眼瞼・瞳孔異常(佐藤)	眼瞼・瞳孔異常をきたす疾患について2		
	5	視覚伝導路(川岸)	視路疾患		
	6	視覚伝導路(川岸)	視野異常		
	7	神経眼科(橋本)	視路疾患と視野異常の関係について		
	8	神経眼科(橋本)	眼球運動のみかた		
	9	神経眼科(橋本)	全身疾患と神経眼科の関わり		
	10	神経眼科(橋本)	CT・MRIの基礎と臨床応用		
	11	神経眼科(鈴木)	神経眼科的疾患について1		
	12	神経眼科(鈴木)	神経眼科的疾患について2		
	13	神経眼科(鈴木)	神経眼科的疾患について3		
	14	神経眼科(鈴木)	神経眼科的疾患について4		
15	まとめ(佐藤)	神経眼科復習			



授業科目	生理光学実習 【視能】	担当教員	四宮 敦志		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	視力・屈折の理論を理解し、検査の基本技術を身につける。				
到達目標	視力・屈折の理論を理解し、クロスシリンダーによる乱視矯正ができる。				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版 (文光堂)、眼科検査ガイド 第3版 (文光堂)、新しい眼光学の基礎 (金原出版)、眼科検査法ハンドブック 第4版 (医学書院) 理解を深めよう 視野検査 (金原出版)、理解を深めよう 視力検査 屈折検査 (金原出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	実技試験 100%		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	座学・実習を通して検査の基本的な理論と技術を習得すること。検査内容・方法をしっかり把握し正確な検査ができるようになること。履修内容について確認試験を実施し、合格した学生は実技試験を受けられる。実技試験の内容はクロスシリンダーを用いた屈折矯正である。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	他覚的屈折検査 (四宮)	屈折矯正手術 座学		
	2	他覚的屈折検査・特殊視力 (四宮)	レフラクトメーター、瞳孔間距離、コントラスト感度、ETDRS 座学		
	3	視力検査・屈折検査 1 (四宮、専任教員)	クロスシリンダーによる乱視矯正 実習 1(検査手順)		
	4	視力検査・屈折検査 2 (四宮、専任教員)	クロスシリンダーによる乱視矯正 実習 2(検査手順)		
	5	視力検査・屈折検査 3 (四宮、専任教員)	クロスシリンダー理論 1		
	6	視力検査・屈折検査 4 (四宮、専任教員)	クロスシリンダー理論 2		
	7	視力検査・屈折検査 5 (四宮、専任教員)	クロスシリンダーによる乱視矯正 実習 3(検査手順・矯正原理)		
	8	視力検査・屈折検査 6 (四宮、専任教員)	クロスシリンダーによる乱視矯正 実習 4(検査手順・矯正原理)		
	9	視力検査・屈折検査 7 (四宮、専任教員)	クロスシリンダーによる乱視矯正 実習 5(応用・矯正原理)		
	10	視力検査・屈折検査 8 (四宮、専任教員)	クロスシリンダーによる乱視矯正 実習 6(応用・矯正原理)		
	11	視力検査・屈折検査 10 (四宮、専任教員)	クロスシリンダーによる乱視矯正 実習 7(クイック・実技試験に向けて)		
	12	視力検査・屈折検査 11 (四宮、専任教員)	クロスシリンダーによる乱視矯正 実習 8 (クイック・実技試験に向けて)		
	13	視力検査・屈折検査 11 (四宮、専任教員)	クロスシリンダー理論 3		
	14	視力検査・屈折検査 12 (四宮)	屈折矯正応用		
15	視力検査・屈折検査 13 (四宮)	屈折矯正応用			



授業科目	生理光学実習 【視能】	担当教員	山田 正幸		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	視力・屈折の理論を基に、症例に適した検査技術を身につける。				
到達目標	ケースに応じた視力・屈折検査ができる。				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版(文光堂)、眼科検査ガイド 第3版(文光堂)、新しい眼光学の基礎(金原出版)、眼科検査法ハンドブック 第4版(医学書院) 理解を深めよう 視野検査(金原出版)、理解を深めよう 視力検査 屈折検査(金原出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート(実習記録を含む)60% 実習評価(課題発表、取組姿勢)40%		
	レポート	60			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	40			
履修上の留意事項	座学・実習を通して検査の応用的な理論と技術を習得すること。 検査内容・方法をしっかり把握し正確な検査ができるようになること。 授業中はノートやメモをしっかりと取り総合的判断から検査ができるようになること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	視力検査、視力・屈折検査(山田)	屈折矯正の応用 レフなし・両眼調整 座学1		
	2	視力検査、視力・屈折検査(山田)	屈折矯正の応用 臨床的な視力検査・屈折検査・再診の屈折矯正 座学2		
	3	視力検査、視力・屈折検査(山田、専任教員)	レフなし矯正、現用眼鏡・CLからの矯正1		
	4	視力検査、視力・屈折検査(山田、専任教員)	レフなし矯正、現用眼鏡・CLからの矯正2		
	5	視力検査、視力・屈折検査(山田、専任教員)	臨床的な視力検査・屈折検査・再診の屈折矯正1		
	6	視力検査、視力・屈折検査(山田、専任教員)	臨床的な視力検査・屈折検査・再診の屈折矯正2		
	7	視力検査、視力・屈折検査(山田)	屈折矯正の応用 眼鏡合わせ 座学3		
	8	視力検査、視力・屈折検査(山田)	屈折矯正の応用 ケーススタディ 座学4		
	9	視力検査、視力・屈折検査(山田、川岸)	両眼調整、眼鏡合わせ1(グループワーク)		
	10	視力検査、視力・屈折検査(山田、川岸)	両眼調整、眼鏡合わせ2(グループワーク)		
	11	視力検査、視力・屈折検査(山田、川岸)	両眼調整、眼鏡合わせ3(グループワーク)		
	12	視力検査、視力・屈折検査(山田、川岸)	両眼調整、眼鏡合わせ4(グループワーク)		
	13	視力検査、視力・屈折検査(山田、川岸)	両眼調整、眼鏡合わせ(まとめ)課題発表・ディスカッション1		
	14	視力検査、視力・屈折検査(山田、川岸)	両眼調整、眼鏡合わせ(まとめ)課題発表・ディスカッション2		
15	レンズと屈折矯正(山田)	頂間距離が与える効果、屈折力・調節力の計算 座学5			



授業科目	総合実習【視能】	担当教員	川岸 寿幸		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	臨床現場で適切な検査業務を行うための基礎知識を整理し、各種検査の基礎を理解する。				
到達目標	基礎知識を基に各視機能検査を適切に実践できる。				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版(文光堂)、眼科検査ガイド 第3版(文光堂)、現代の眼科学 改訂版第13版(金原出版)、視能矯正マニュアル 改訂版(メディカル葵出版) 理解を深めよう 視力検査・屈折検査(金原出版)、新しい眼光学の基礎(金原出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	実技試験 100%		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	学習範囲が広いためその都度復習をすること。知識と技術が求められるため、自主練習に励むこと。各分野の小テストに合格した学生は実技試験を受けられる。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	眼科検査のための基礎知識(松田)	眼の機能・解剖		
	2	各種眼科検査1(四宮)	眼圧検査・角膜内皮細胞検査・眼軸長検査 グループワーク		
	3	各種眼科検査2(四宮)	各種検査実習		
	4	各種眼科検査3(四宮)	各種検査実習		
	5	各種眼科検査4(川岸)	涙液検査・色覚検査		
	6	各種眼科検査5(川岸)	視野検査・電気生理検査		
	7	各種眼科検査6(川岸)	各種検査実習		
	8	各種眼科検査7(佐藤)	眼位・眼球運動検査		
	9	各種眼科検査8(佐藤)	両眼視機能検査		
	10	検診実習1(四宮、佐久間、川岸)	1年生の検診実習		
	11	検診実習2(四宮、佐久間、川岸)	1年生の検診実習		
	12	検診実習3(四宮、佐久間、川岸)	1年生の検診実習		
	13	検診実習4(四宮、佐久間、川岸)	2年生の検診実習		
	14	検診実習5(四宮、佐久間、川岸)	2年生の検診実習		
15	検診実習6(四宮、佐久間、川岸)	2年生の検診実習			



授業科目	病理学 【視能】	担当教員	飯塚 正		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	病気になるということはどのようなことかを理解する。				
到達目標	各疾病の原因、病態、治療、回復を専門用語で説明できる。				
テキスト・参考図書等	プリント配付				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	定期試験 100%(中間試験+期末試験)		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	<p>プロジェクターを使用し、広範囲を早いペースで進むので、講義への集中と資料の整理整頓が望まれる。</p> <p>中間試験を行うこともある。 配布したプリントは毎回持参すること。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	呼吸器疾患 1	呼吸器の特徴、炎症性疾患		
	2	呼吸器疾患 2	腫瘍性疾患、肺癌、転移性腫瘍		
	3	泌尿器疾患 1	泌尿器の構造、機能		
	4	泌尿器疾患 2	腎、膀胱の疾患		
	5	生殖器疾患 1	生殖器構造、機能		
	6	生殖器疾患 2	炎症、腫瘍性疾患		
	7	内分泌疾患 1	内分泌器官の構成、特徴		
	8	内分泌疾患 2	クッシング症候群、パセドウ病など機能亢進症と機能低下症		
	9	運動器疾患 1	運動器構造、関節疾患		
	10	運動器疾患 2	筋疾患、骨疾患		
	11	循環器疾患 1	循環器の特徴		
	12	循環器疾患 2	心臓、血管障害		
	13	循環器疾患 3	脳の循環障害		
	14	消化器疾患 1	消化器の構造、機能		
15	消化器疾患 2	消化器の炎症性、腫瘍性疾患			



授業科目	薬理学【視能】		担当教員	内田 瑞希	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	眼科薬理を理解するために必要な薬理学基礎を学び、薬物治療の基礎を身につける。				
到達目標	一般的な薬物の作用機序と効果・副作用を学び、一般眼科診療で用いられる点眼薬、内服薬、縮瞳薬、散瞳薬について説明できる。またショックとその対応について述べることができる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材、視能学 第3版(文光堂)、現代の眼科学 改訂第13版(金原出版)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80	内田(定期試験70%+小テスト10%) 四宮(提出物5%・小テスト5%・実技試験10%)		
	レポート	0			
	小テスト	15			
	提出物	5			
その他	0				
履修上の留意事項	小テストがあるため復習が必要である。点眼の実技試験があるため練習すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	溶液の濃度、化学式と化学反応、薬理学基礎	薬物の作用についての概論 薬物受容体について		
	2	溶液の濃度、化学式と化学反応、薬理学基礎	薬物の体内動態		
	3	溶液の濃度、化学式と化学反応、薬理学基礎	薬物動態・薬物間相互作用		
	4	溶液の濃度、化学式と化学反応、薬理学基礎	自律神経作用薬		
	5	溶液の濃度、化学式と化学反応、薬理学基礎	体性神経作用薬		
	6	溶液の濃度、化学式と化学反応、薬理学基礎	中枢神経作用薬		
	7	溶液の濃度、化学式と化学反応、薬理学基礎	第1回～第6回までの復習 解説		
	8	眼科薬理	抗アレルギー薬、抗ヒスタミン薬		
	9	眼科薬理	高感染症薬 前回の復習 復習テスト講評		
	10	眼科薬理	抗真菌薬、抗ウイルス薬、抗原虫薬、消毒薬		
	11	眼科薬理	眼科外用薬全般		
	12	眼科薬理	第8回～第11回 復習テスト 全体復習		
	13	眼科薬理・点眼	ノート作成(交感神経作動薬、交感神経遮断薬、副交感神経作動薬、副交感神経遮断薬) 点眼練習		
	14	眼科薬理・点眼	ノート作成(交感神経作動薬、交感神経遮断薬、副交感神経作動薬、副交感神経遮断薬) 点眼練習		
15	眼科薬理・点眼	小テスト 点眼実技			



授業科目	倫理学【視能】	担当教員	麻生 尚志		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性を養う。視能訓練士として医療現場で必要とされる倫理観を学ぶ。				
到達目標	高い倫理観をもった視能訓練士を目指す。				
テキスト・参考図書等	プリント教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート 100%		
	レポート	100			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	プリントや板書を中心に講義形式の授業のためノートを作成すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	倫理とは	人が社会で生きるための「筋道」が倫理です。黄金律や孔子の言葉を見てみましょう。		
	2	西洋の基本的倫理思想	西洋の基本的倫理思想である 徳倫理 義務論 功利主義を簡単に紹介します。		
	3	医療をめぐる倫理の歴史的経緯と倫理	現代の形での医療倫理、生命倫理は第二次大戦後発達しました。まずその歴史的経緯を見ましょう。		
	4	生命倫理の基本的発想	生命倫理の基本的発想である患者の権利などを見ていきます。		
	5	患者の自己決定と安楽死	患者の自己決定権を尊重することが現代の医療倫理の基本的発想です。では、その本人が死を望んだらどうなるのかを考えていきましょう。		
	6	生命の質と生命の神聖さ	現代の医療でよく用いられる QOL (Quality of Life) という発想の背後にある危険性について考えていきましょう。		
	7	優生思想	優生思想とは「社会に優秀な遺伝子を残し、劣った遺伝子を取り除こう」という発想です。戦後の日本でも優生政策が行われました。		
	8	命の尊さについて	専門職の倫理としての生命倫理、医療倫理である以前に一人の人として命の尊さを考えていきましょう。		



授業科目	研究法【視能】	担当教員	松田 理恵		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8回	時間数	16時間
授業目的	視能訓練士としての医学的な知見を共有・発展させる手法を学ぶ。				
到達目標	視能訓練士として研究発表や討議ができる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	課題発表 40% 症例発表会レポート 20% 記録の書き方 40%		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	40			
その他	40				
履修上の留意事項	3年生の症例発表や国家試験問題、ケーススタディなどをもとに研究や討議、発表を行う授業。 自ら学ぶ姿勢を育成することを狙う授業のためレポートの提出が必須。期限厳守の上、提出すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	課題発表の技術1	課題発表の目的、作成から発表までの流れ、作成上の注意事項説明、眼科医療に関する題材の中から課題選定		
	2	課題発表の技術2	アウトライン作成、発表資料作成1		
	3	課題発表の技術3	発表資料作成2		
	4	課題発表の技術4	発表資料作成3		
	5	課題発表の技術5	中間発表		
	6	課題発表の技術6	パワーポイントや原稿の修正点を確認		
	7	課題発表の技術7	課題発表会、課題発表および学生相互評価		
	8	課題発表の技術8	課題発表会、課題発表および学生相互評価		
	9	症例発表会1(専任教員)	症例発表の方法、症例発表会レポート1		
	10	症例発表会2(専任教員)	症例発表の方法、症例発表会レポート2		
	11	記録の書き方1(専任教員)	実習記録の書き方1		
	12	記録の書き方2(専任教員)	実習記録の書き方2		
	13	記録の書き方3(専任教員)	実習記録の書き方3		
	14	記録の書き方4(専任教員)	症例記録の書き方1		
15	記録の書き方5(専任教員)	症例記録の書き方2			



授業科目	眼鏡・コンタクトレンズ学 【視能】	担当教員	山田 正幸		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	眼鏡とコンタクトレンズの基礎を学び、眼科検査と結びつける。				
到達目標	眼鏡・コンタクトレンズの理論・特徴を理解し説明できる。眼光学の理論に基づいた屈折検査・コンタクトレンズに関わる検査業務ができる。				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版(文光堂)、眼科検査ガイド 第3版(文光堂)、屈折異常とその矯正 改訂第7版(金原出版)、新しい眼光学の基礎(金原出版) プリント教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	75	臨床コンタクトレンズ、眼鏡基礎 定期試験 (山田) 75% 基礎コンタクトレンズ(小テスト)5% 眼鏡学(塩田) 10% 確認試験 (山本) 10%		
	レポート				
	小テスト	10			
	提出物				
その他	15				
履修上の留意事項	プリントや板書を中心に講義形式の授業。 実習を通して理論と技術の習熟。 課題や宿題を課し、自ら学ぶ姿勢を育成することを狙う授業。 提出物は期限厳守の上、担当学生が一括してクラス担任に提出すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	基礎コンタクトレンズ(専任教員)	コンタクトの基礎 1		
	2	基礎コンタクトレンズ(専任教員)	コンタクトの基礎 2		
	3	基礎コンタクトレンズ(専任教員)	視能訓練士の役割、理論と実際 1		
	4	基礎コンタクトレンズ(専任教員)	視能訓練士の役割、理論と実際 2		
	5	基礎コンタクトレンズ(専任教員)	コンタクトの基礎、視能訓練士の役割、理論と実際 (体験実習)		
	6	基礎コンタクトレンズ(専任教員)	コンタクトの基礎、視能訓練士の役割、理論と実際 (体験実習)		
	7	眼鏡学 1(塩田)	眼鏡フレーム		
	8	眼鏡学 2(塩田)	眼鏡加工作製		
	9	眼鏡学 3(塩田)	眼鏡加工作製		
	10	眼鏡学 4(塩田)	眼鏡加工作製		
	11	眼鏡学 5(塩田)	眼鏡フィッティング		
	12	眼鏡学 6(塩田)	眼鏡フィッティング		
	13	HOYA(山本)	加齢による眼の特性変化 多様な累進レンズ設計と見え方の違い(テストレンズによる体験)		
	14	HOYA(山本)	累進帯長、加入度や単焦点と近近レンズの違い(テストレンズによる体験)		
	15	HOYA(山本)	処方箋記入情報、芯出し位置、加入度、度数測定		
	16	HOYA(山本)	レンズマーク、調節サポート(マークと印字の確認実習 サポートレンズ体験)		
	17	HOYA(山本)	アイプロテクション、視感透過率、ブルーライトカット IOL 挿入者対応、遠点近点(テストレンズ装用時)		
	18	視機能検査(山田)	細隙灯顕微鏡 座学・実習		
19	臨床コンタクトレンズ(山)	レンズ装脱、ケア方法、使用方法について 座学・実習			

	田)	
20	臨床コンタクトレンズ (山田)	レンズ装脱、ケア方法、使用方法について 座学・実習
21	臨床コンタクトレンズ (山田)	装用時間と内皮細胞 TCの軸ずれについて BCとPOWERの関係(HCL) 座学
22	臨床コンタクトレンズ (山田)	SCL 合わせの理論と実際(グループ実習)
23	臨床コンタクトレンズ (山田)	SCL 合わせの理論と実際(グループ実習)
24	臨床コンタクトレンズ (山田)	SCL 合わせの理論と実際(グループ実習)
25	臨床コンタクトレンズ (山田)	HCL 合わせの理論と実際
26	臨床コンタクトレンズ (山田)	HCL 合わせの理論と実際
27	臨床コンタクトレンズ (山田)	レフケラのデータ、角膜乱視、水晶体乱視、全乱視、残余乱視
28	視機能検査 (山田)	シクロペントレート塩酸塩による調節力の変化
29	特殊コンタクトレンズ (専任教員)	症例別 円錐角膜
30	特殊コンタクトレンズ (専任教員)	症例別 虹彩付 SCL



授業科目	視能矯正学 【視能】		担当教員	佐藤 幸恵	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	視能矯正学の知識と技術を習得し、視能訓練士として正しい診断、治療を導きだせる為の正しい検査法を習得する。				
到達目標	視能矯正学の概要・理論と実際を習得し、論じ、実践することができる。				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版 (文光堂)、眼科検査ガイド 第3版 (文光堂)、視能矯正マニュアル 改訂版 (メディカル葵出版)、視能矯正学 改訂第3版 (金原出版)、視能学エキスパート 視能訓練学 第2版 (医学書院)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	確認試験 100%		
	レポート				
	小テスト				
	提出物				
その他					
履修上の留意事項	臨床的な内容を学ぶため、講義の開始前までに基本的な知識や技術を復習し、身につけておくこと。臨床実習を意識し、メモをとりながら受講すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	眼球運動の基礎 (佐久間)	外眼筋の解剖・作用 ともむき筋、ともひき筋、はりあい筋		
	2	眼球運動の基礎 (佐久間)	各種眼球運動 むき運動、ひき運動、離反運動		
	3	非共同性斜視の検査 (佐藤・佐久間)	非共同性斜視の眼位測定実習		
	4	非共同性斜視の検査 (佐藤・佐久間)	非共同性斜視の眼位測定実習 Parks 3step		
	5	両眼視機能検査 (佐藤)	立体視検査①		
	6	両眼視機能検査 (佐藤)	立体視検査		
	7	斜視と両眼視 (佐藤)	間欠性外斜視と微小斜視 融像と抑制について		
	8	両眼視機能検査 (佐藤・佐久間)	融像について パープリズムによる融像幅の測定実習		
	9	両眼視機能検査 (佐藤・佐久間)	パープリズムによる融像幅の測定実習・演習		
	10	眼位検査 基礎とポイント (藤井)	両眼性複視と単眼性複視の見きわめかた 問診の聴取のポイント		
	11	眼位検査 基礎とポイント (藤井)	Hirschberg法 (krimsky法を含む)の必要性和検査方法および注意点		
	12	眼位検査 基礎とポイント (藤井)	眼位検査 (定性と定量)		
	13	眼位検査 基礎とポイント (藤井)	眼位検査の実習		
	14	眼球運動検査 基礎とポイント (藤井)	眼球運動の検査法 回旋偏位の検出法 実習		
15	眼球運動検査 基礎	Hess赤緑試験の方法と注意点 実習			

	とポイント（藤井）	
16	眼球運動検査 基礎と ポイント（藤井）	症例呈示
17	眼球運動検査 基礎と ポイント（藤井）	複視の光学的治療について
18	両眼視機能検査 その実 際とポイント（山口）	大型弱視鏡による自覚的斜視角、同時視、融像、立体視、網膜対応
19	両眼視機能検査 その実 際とポイント（山口）	大型弱視鏡による他覚的斜視角、9方向眼位、AC/A比測定
20	視能訓練 その実際と ポイント（山口）	プリズム療法、間欠性外斜視の抑制除去、融像、輻輳訓練
21	視能訓練 その実際と ポイント（山口）	プリズム療法、間欠性外斜視の抑制除去、融像、輻輳訓練
22	プリズム療法、間欠性外斜 視の抑制除去、融像、輻輳 訓練（大野）	視力と眼位と両眼視について1
23	視力、眼位、両眼視機能は 三位一体（大野）	視力と眼位と両眼視について2
24	立体視検査（大野）	各立体視検査について1
25	立体視検査（大野）	各立体視検査について2
26	臨床例（大野）	屈折度数に変化をきたす症例（大野）
27	視能訓練（大野）	間欠性外斜視の視能訓練
28	弱視治療（大野）	臨床的弱視治療
29	弱視・斜視ケーススタディ （大野）	弱視・斜視ケーススタディ
30	まとめ（佐藤）	斜視・弱視 まとめ



授業科目	臨地実習 【視能】	担当教員	松田 理恵		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	医療人としての態度や心構え、コミュニケーション能力を身につける。 幅広い年齢層に対する眼科検査の知識と技術を学ぶ。				
到達目標	視能訓練士の実習生として、基本的な接遇マナーを実習先に応じて実践できる。				
テキスト・参考図書等	プリント教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	各実習先ごとの提出物(レポート・感想文・実習評価)100%		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
その他	0				
履修上の留意事項	各実習先の実施要領を参照。 実習先ごとにレポートおよび感想文の提出があるため積極的に参加しメモを取ること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	メガネのプリンス実習 (20時間)	眼科医療現場で必要な接遇やマナーの基礎を作る。眼鏡店に来られる方のニーズを知る。眼鏡の取り扱いを学ぶ。		
	2	円山動物園実習 (2時間)	公共施設のユニバーサルデザインについて学び、興味・知識を深める。		
	3	眼科外来見学 (3時間)	眼科施設を見学し、眼科外来の流れや視能訓練士の業務を眼で見て学ぶ。		
	4	高齢者施設眼科検査実習 (3時間)	高齢者への対応と検査スキルを磨く。		
	5	保育園検診実習 (12時間)	小児に屈折検査、視力検査、両眼視検査、眼位・眼球運動検査を実施することで、小児に対する検査スキルを磨く。		



授業科目	ロービジョン学【視能】	担当教員	川岸 寿幸		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	ロービジョンケアを行う上で視能訓練士として必要な基礎知識を習得する。				
到達目標	ロービジョンケアを行う上で視能訓練士に必要な基礎知識と技術を理解する。臨床にて実際にロービジョンに携わっている医師・視能訓練士の先生の講義を通して、ロービジョン業務について興味を持ち実践する気持ちは作る。				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版 (文光堂)、配付プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50	定期試験 50% 小テスト 30% 発表点 20%		
	レポート	0			
	小テスト	30			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	<p>2年後期に行う講義になるので、必要最低限の解剖・検査・疾患等を理解していないと授業目的に達することは厳しい。今までの講義をもう一度復習したうえで視能訓練士としてロービジョンケアに携わることがなぜ必要なのかを常に考えながら受講してほしい。</p> <p>実習を行うこともあるが患者の立場に立った行動を心掛け真剣に臨むこと。</p> <p>ロービジョン外来を経験している医師・視能訓練士からロービジョンサービスについて受講することができます。真剣に受講してください。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ロービジョン学各論1	身体障害者福祉法 等級について		
	2	ロービジョン学各論2	眼科における視能訓練士のロービジョンの役割		
	3	ロービジョン学各論3	ロービジョンエイド1		
	4	ロービジョン学各論4	ロービジョンエイド2 補装具		
	5	ロービジョン学各論5	ロービジョンエイド3 光学的補助具の倍率		
	6	ロービジョン学総論1	疾患別ロービジョンケア 視野狭窄		
	7	ロービジョン学総論2	疾患別ロービジョンケア 中心暗点		
	8	遮光眼鏡について1 東海光学	遮光眼鏡 総論		
	9	遮光眼鏡について2 東海光学	遮光眼鏡 実習		
	10	クイックロービジョン1 (亀山)	クイックロービジョンケア		
	11	クイックロービジョン2 (亀山)	クイックロービジョンケア		
	12	臨床的ロービジョン1	臨床で行うロービジョン業務		
	13	臨床的ロービジョン2	身体障害者認定について		
	14	臨床的ロービジョン3	ロービジョンケアプラン作成		
15	臨床的ロービジョン4	ロービジョンケアプラン プレゼンテーション			



授業科目	関係法規【視能】		担当教員	西田 昌弘	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	8回	時間数 16時間
授業目的	視能訓練士の免許や業務及び法的責任や義務は「視能訓練士法」によって定められている。職務を正しく遂行するために正しい理解と遵守は欠かせない視能訓練士が専門職業人として、その職務を十分に果たすために「関係法規」を学び、それらの業務との連携・協働の必要性や意義を理解すること。				
到達目標	視能訓練業務や視能訓練士の資格等に係る法規を単独で、かつ相互に関連させて理解し説明できること。個別衛生法規の要点を理解し説明できること。医療分野や福祉等の関連分野の法規を学び、それらの業務との連携・協働の必要性や意義を理解し説明できること。				
テキスト・参考図書等	プリント教材				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	定期試験 100%		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	視能訓練士という資格が法律に基づいて作られたものであり、保健医療業務も社会制度や政策になったといわれる現在、その根拠となっている法規について正しい理解をもつことが、適切な視能訓練業務を提供するために必要であることを理解し、学習に励んでもらいたい。また、法規には、医学や視能訓練に関する学問とは異なる特有の考え方や表現があり、難解な面もあるかと思うので、予習や復習に努めてもらいたい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	法とは何か	視能訓練士が関係法規を学ぶ目的、法の意義、法の分類、法の解釈		
	2	視能訓練士法	視能訓練士法、視能訓練士法施行令		
	3	個別衛生法規と関連法規	医療法、医薬品医療機器等法		
	4	個別衛生法規と関連法規	医師法、保健師助産師看護師法等		
	5	個別衛生法規と関連法規	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律		
	6	個別衛生法規と関連法規	臓器移植法、母子保護法、高齢者の医療に関する法律、学校保健安全法、労働安全衛生法、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法		
	7	医療ミスに対する責任、医療安全対策	民事上の責任、刑事上の責任、行政上の処分、医療安全対策		
8	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセント			



授業科目	眼科学実習 【視能】	担当教員	山田 正幸		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	眼底についての基礎知識を身につけ、眼底写真の撮影を適切に行える。				
到達目標	基礎知識をもとに必要な眼底写真を撮影できる。OCTの基礎、測定方法、検査結果の解析についての基礎知識を習得する。				
テキスト・参考図書等	視能学 第3版(文光堂)、眼科検査ガイド 第3版(文光堂)、現代の眼科学 改訂第13版(金原出版)、新OCT・OCT-A 読影トレーニング(メジカルビュー社)				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	試験 100% (実技試験 30% + 定期試験 70%)		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	0				
履修上の留意事項	検査機械の操作や撮影方法、データの見方を習得するため自発的に取り組む事 実技試験に合格した者が定期試験を受けられるものとする				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	眼底検査 1	眼底カメラ撮影 機械操作方法		
	2	眼底検査 2	後極部撮影 基本操作、眼瞼挙上、両手使用		
	3	眼底検査 3	後極部撮影 基本操作、眼瞼挙上、両手使用		
	4	眼底検査 4	後極部・視神経乳頭部撮影		
	5	眼底検査 5	後極部・視神経乳頭部撮影		
	6	眼底検査 6	前眼部・周辺部パノラマ撮影		
	7	眼底検査 7	前眼部・周辺部パノラマ撮影		
	8	眼底検査 8	眼底カメラ撮影 実技おさらい OCT OCT-A		
	9	眼底検査 9	眼底カメラ撮影 実技おさらい OCT OCT-A		
	10	眼底検査 10	OCTの基礎 1 (TOPCON)		
	11	眼底検査 11	OCTの基礎 2 (TOPCON)		
	12	眼底検査 12	OCTの見方 1 座学		
	13	眼底検査 13	OCTの見方 2 座学		
	14	まとめ	眼底カメラ、OCT その他 実技復習		
15	まとめ	眼底カメラ、OCT その他 座学復習			

